

共用品推進機構だより 2016年09月23日(25)

目次

(116) 各種催しとお知らせ

▽『『がっぱ先生!』放映決定』

▽『『2016 東京国際包装展』開催のお知らせ』

(117) 製品関連記事

▽『スマホで予約設定 三菱電機の炊飯器』

(118) サービス関連記事

▽『全日空が点字メニュー 拡大文字と英語も併記/全日本空輸』

(119) その他、各種関連記事

▽『駅ホーム もっと安全に』

▽『障害者雇用 達成 31% 依然広がらず』

(120) 新刊紹介

▽『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』

▽『知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック
危ない! 困った! を安全・安心に』

▽『障害者のリアル×東大生のリアル』

▽『発達障害のある子の社会性とコミュニケーションの支援』

▽『決定版! 特別支援教育のためのタブレット活用
今さら聞けないタブレット PC 入門』

▽『14歳からの発達障害サバイバルブック
発達障害者&支援者として伝えたいこと』

(116) 各種催しとお知らせ

▼ 『がっぱ先生！』 放映決定」

9月23日（金）夜9時～、日本テレビにて『みんなで跳んだ』（角川つばさ文庫）を原案としたドラマが放映されます。

主人公愛子が初めて担任する5年2組で、運動会のクラス対抗大縄跳びに向けて練習が始まる。活発な児童を中心に優勝を目指す中、繰り返し失敗してしまう男子児童・カツオ。あることがきっかけで運動が苦手だったカツオを、教頭や保護者からの希望もあって「応援係」とすることを決める愛子とクラスの児童たち。しかし、運動会の日が近づくとつれ、本当は全員で跳ぶべきなのではないか？と悩む愛子。

<http://www.ntv.co.jp/gappa0923/>

▼ 『2016 東京国際包装展』 開催のお知らせ」

TOKYO PACK “東京国際包装展” は、さまざまな業界で活躍している包装資材・容器、包装機械を中心に、調達から生産、物流、流通、販売、消費、廃棄・リサイクルに至るまでのあらゆる分野を網羅した世界有数の国際総合包装展です。

日時：2016年10月4日（火）～7日（金）10:00～17:00

場所：東京ビックサイト東ホール（全6館）

〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1

入場料：無料

問い合わせ

2016 東京国際包装展事務局

〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 10 階

（公社）日本包装技術協会 内

TEL：03-3543-1189 FAX：03-3543-8970

E-mail：tp16@jpi.or.jp

2016 東京国際包装展ホームページ： <http://www.tokyo-pack.jp/>

(117) 製品関連記事

▼「スマホで予約設定 三菱電機の炊飯器」

三菱電機は、スマートフォン（スマホ）のアプリを使って声で予約設定できる 5.5 合炊きの IH ジャー炊飯器「備長炭炊釜 NJ-VA107」を発売した。

今回の機種は音声ガイドはないが、アンドロイドスマホ用無料アプリ「らく楽炊飯」を使って音声で指示できる。使い方はまず、スマホ画面のタップか声で米の銘柄や炊き上がり具合、炊飯時間を告げて設定。そのスマホを炊飯器の上にかざすと、設定内容が転送される。銘柄は 10 種から選べる。付属品として 0.5 合と 1 合が量れる軽量カップ、自立式のしゃもじが入っている。同社のお客さま相談センターに電話すれば、本体ボタンに付ける点字シールやしゃもじの柄に取り付け、触って水加減が確かめられるゴムリング、クイックガイドを収めた音声 CD が無料で送られる。

(点字毎日活字版 9月15日3面より抜粋)

(118) サービス関連記事

▼「全日空が点字メニュー 拡大文字と英語も併記／全日本空輸」

全日本空輸（ANA）は機内サービスで出している飲み物の種類を点字と拡大文字で記した冊子を乗客に 6 月から貸し出している。国内線ではプレミアムクラス、国際線のファースト、ビジネス、エコノミーに 1 部ずつ用意した。

以前は客室乗務員が紙に印刷されたメニューを読み上げていたが、視覚障害者から「自分でメニューを確認してゆっくりと選びたい」などの要望を受け、初めて置いた。

冊子は A4 よりやや小さい。運航している機体の数に合わせて、国内線は約 800 部、国際線は各クラス約 1290 部ずつ作った。印刷された文字と点字は、ともに日本語と英語で記してある。

(点字毎日活字版 9月8日9面より抜粋)

(119) その他、各種関連記事

▼「駅ホーム もっと安全に」

東京の地下鉄駅で盲導犬を連れた男性がホームから転落し死亡した事故を受け、各地で駅をより安全に利用できる場所にするための取り組みがあった。

愛知県では8月23日、約30の障害者団体で作る「愛知障害フォーラム」のメンバーが名古屋市中区の中部運輸局に、ホームドアの設置を進めることなど計6項目にわたる要望書を提出。「設置が進めば高齢者ら、より多くの人々が駅を利用しやすくなる」などと訴えた。また未設置の駅には駅員や警備員を置いて、事故を防ぐことも求めた。

三重県では同27日、県立盲学校の生徒や保護者らが学校近くのショッピングセンターで転落防止の協力を呼び掛けた。活動ではポケットティッシュを用意。「駅のホームを歩くことは欄干のない橋を渡るようなものです」などとメッセージが書かれたチラシを添えて買い物客に手渡した。

(点字毎日活字版 9月15日3面より抜粋)

▼「障害者雇用 達成31% 依然広がらず」

エン・ジャパンは16日、障害者雇用に関するアンケート調査の結果を発表した。従業員数が50人以上の企業に義務付けられている「障害者雇用の法定雇用率2.0%」を達成しているのは31%にとどまった。昨年調査の32%とほぼ変わらない数字で、障害者を雇用する企業があまり広がっていない実態が浮き上がった。

(日経産業新聞 9月20日19面より抜粋)

(120) 新刊紹介

▼『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』

オルフと知的障害者(青年)の音楽活動の分析による身体の動きは音楽とどのように繋がっているのであろうか。カール・オルフの音楽と動きの活動、及びオルフ教育を適用した知的障害者(青年)の曲づくり・動きづくりの過程を、音楽教育学の立場から分析する。

著：下出美智子（しもで・みちこ）

発行：風間書房

本体価格：6000 円（税別）

ISBN：978-4-7599-2139-7

▼『知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック
危ない！困った！を安全・安心に』

リハビリテーションセンターの建築士と発達を専門とする精神科医による新提案。知的障害や発達障害のある子どもが家庭生活のなかでしばしば示す問題を取り上げ、それらを少しでも解消し、安全・安心に暮らすための工夫を紹介。

著：西村颯（にしむら・あきら） 本田秀夫（ほんだ・ひでお）

発行：中央法規出版

本体価格：2400 円（税別）

ISBN：978-4-8058-5382-5

▼『障害者のリアル×東大生のリアル』

ALS、ディスレクシアなどの障害者をゲスト講師として招いた東京大学の講義「障害者のリアルに迫る」東大ゼミ」。受講した東大生たちが、障害者のリアルにどのように迫り、何を感じ、何を考えたのかを赤裸々に書き綴る。

編著：野沢和弘（のざわ・かずひろ）

著：「障害者のリアルに迫る」東大ゼミ

発行：ぶどう社

本体価格：1500 円（税別）

ISBN：978-4-89240-227-2

▼『発達障害のある子の社会性とコミュニケーションの支援』

コミュニケーションカが求められる現代、発達障害のある子の社会性やコミュニケーションをどう支援するか？最新の理論と実践、ユニークな試みを紹介する。

編著：藤野博（ふじの・ひろし）

著：藤野博（ふじの・ひろし）ほか

発行：金子書房

本体価格：1300 円（税別）

ISBN：978-4-7608-9547-2

▼『決定版! 特別支援教育のためのタブレット活用
今さら聞けないタブレット PC 入門』

特別支援教育で普及してきているタブレット端末を有効に活用するための解説書。各 OS の基本操作から、特別支援教育で使えるアプリ、実践事例、教材製作ソフトの紹介と活用までを収録。

編著：金森克浩（かなもり・かつひろ）

執筆：新谷洋介（あらや・ようすけ）ほか

発行：ジアース教育新社

本体価格：2100 円（税別）

ISBN：978-4-86371-371-0

▼『14 歳からの発達障害サバイバルブック
発達障害者&支援者として伝えたいこと』

心理士として発達障害をオープンにして働いている著者が、発達障害を持つ人が生きやすく生きるためにはどうすればよいのか、発達障害当事者としてどう考えているのか、支援者としてどう感じているのかをていねいに記す。

著：難波寿和（なんば・ひさかず）

イラスト：高橋稚加江（たかはし・ちかえ）

発行：学苑社

本体価格：1800 円（税別）

ISBN：978-4-7614-0780-3

（編集後記）

9 月 13 日から 16 日にブラジルのサンパウロで開催された ISO（国際標準化機構）/TC 173（福祉用具専門委員会）と ISO/TC 173/SC 7（アクセシブルデザイン分科委員会）の総会に参加しました。SC 7 の会議は日本が主催したのですが、スウェーデン、韓国、ブラジル、日本の専門家（エキスパート）、ISO 中央事務局が参加し、全体で 10 人の会議となりました。会議では SC 7 の活動、WG（作業グループ）の報告を行い、提案予定である「視覚障害者のための取

扱説明書」、「消費生活用製品のアクセシビリティ評価」、「障害のある人々と高齢者の不便さ調査」について説明しました。ISO/TC 173 の総会では SC 7 の活動報告を行いました。このとき南アフリカの参加者から、SC7 のエキスパートを確保したので、今後 SC7 の活動に参加するとの連絡を受けました。16 日のセミナーでは、ISO 中央事務局や WHO（世界保健機関）の発表に続き、「アクセシブルデザイン」と題して、「アクセシブルデザインとは?」、「日本の共用品の例」、「共用品推進機構の活動—市場規模調査と不便さ調査」、「ISO/TC 173/SC 7 について」、「SC7 で提案予定の上記三つの案件」について発表しました。ケニア、オーストラリア、ISO 中央事務局から良い発表であったとの意見をもらうことができました。

（松岡光一）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>